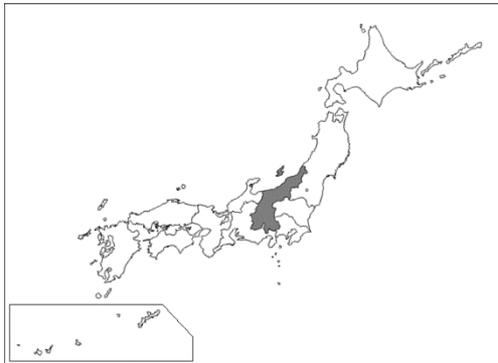


(5) 甲 信 越



甲信越地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

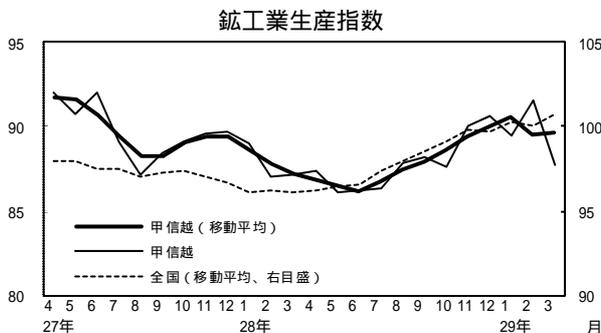
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 29 年 2 月)	今回 (平成 29 年 5 月)	
住宅建設	大幅に増加	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

1～3月期には、電子デバ、電気・情報通信は、減少した。汎・生産・業務用機械は、国内外の設備投資需要等を背景に増加した。石油・石炭製品、化学、プラ製品は増加した。鉄鋼業、非鉄金属、金属製品は横ばいとなった。輸送機械は、増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
電子デバ、電気・情報通信	42.8	1.0	1.5	2.2	1.9	7.4
汎・生産・業務用機械	17.9	3.9	1.3	0.2	3.6	3.6
石油・石炭製品、化学、プラ製品	10.5	4.3	1.8	0.9	0.5	3.4
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.6	1.5	0.0	3.2	2.8	1.4
輸送機械	7.1	4.6	2.7	2.4	6.3	1.1
鉱工業	100.0	2.2	0.2	1.2	2.2	4.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 1～3月期、3月は速報値。

- (備考) 1. 22年=100、季節調整値、最新月は速報値。
2. 全国及び甲信越の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。
3. 甲信越は内閣府にて算出。

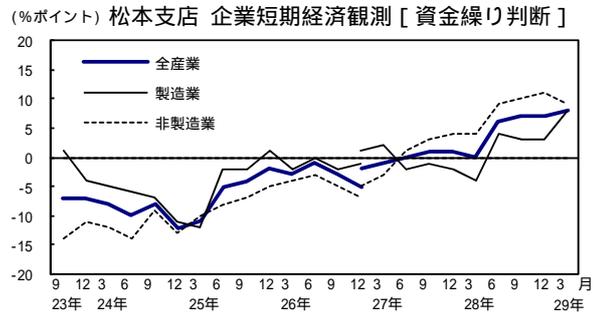
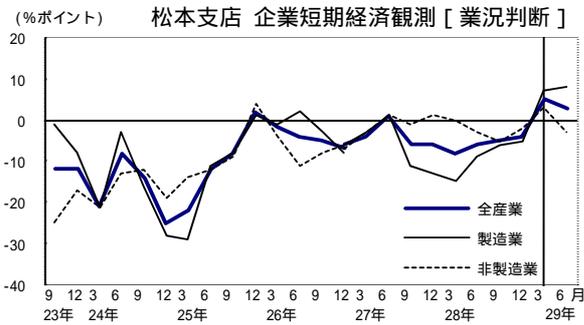
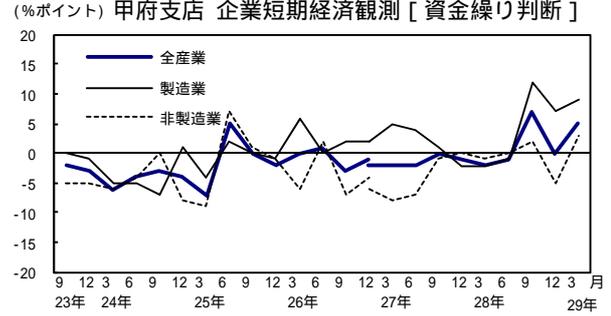
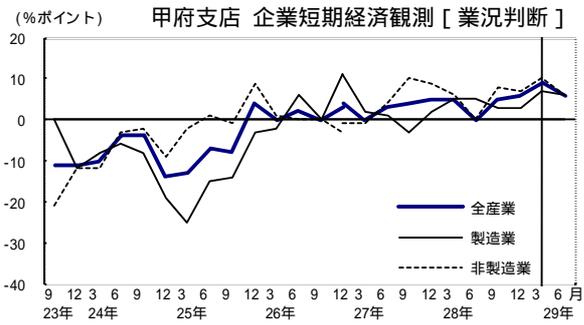
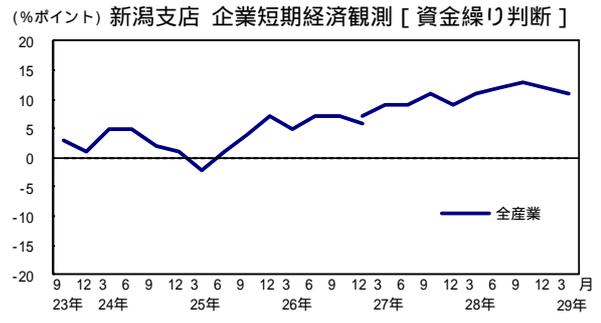
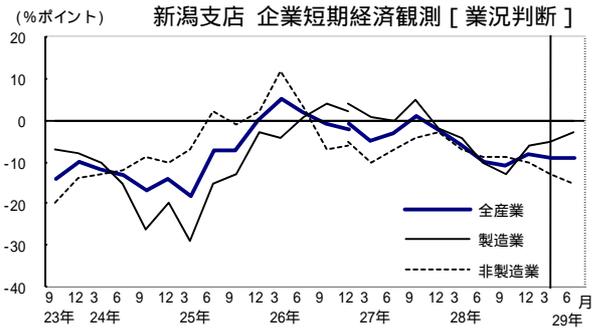
(2) 新潟支店の企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

甲府支店の企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

松本支店の企業動向の業況判断は「良い」超に転じ、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

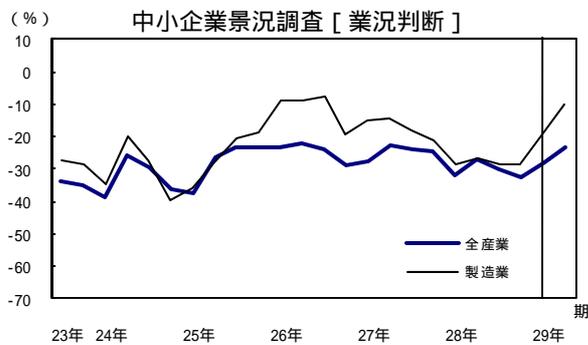
(5) 甲信越

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年3月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

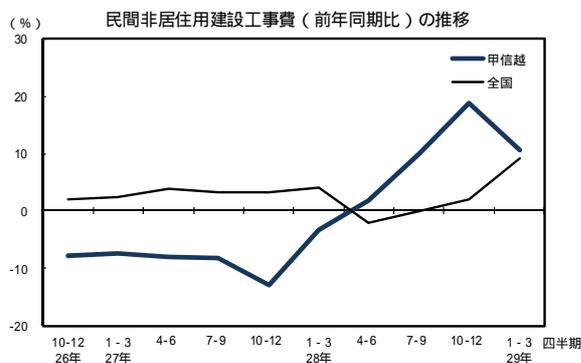
景気ウォッチャー調査（4月調査結果）[企業動向関連（現状）]

「短納期、低コストであるものの、受注は安定してきている。一方で、パーツ、部品の確保が難しく、厳しい状態が続いている（電気機械器具製造業）」などの回答がみられた。

（3）設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。

企業短期経済観測調査 [設備投資（3月調査）]

(前年度比、%)



	28年度実績見込み	29年度見画
全産業		
新潟支店	16.7 (6.8)	8.4
甲府支店	24.0 (5.7)	13.6
松本支店	3.5 (3.0)	2.2
製造業		
新潟支店	25.2 (2.4)	14.4
甲府支店	22.2 (8.4)	31.5
松本支店	1.9 (3.8)	3.5
非製造業		
新潟支店	9.7 (17.3)	2.8
甲府支店	26.1 (30.3)	8.5
松本支店	11.8 (0.7)	3.7

(備考) ()は前回(12月)調査比修正率。

2. 需要の動向

（1）個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

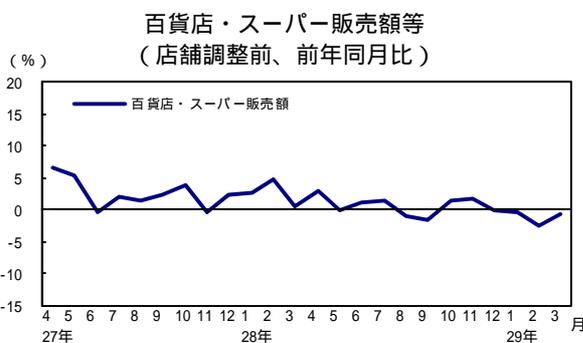
1月は前月比0.4%減、2月は同2.2%増、3月は同2.0%減となった。

百貨店・スーパー販売額

1月は、飲食料品は前年を上回ったものの、衣料品や身の回り品等が振るわなかったため、前年を下回った。2月は、衣料品、身の回り品、飲食料品の動きが鈍かったこと等から、前年を下回った。3月は、飲食料品やその他の商品は前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品等が前年を下回ったため、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査（4月調査結果）[家計動向関連（現状）]

「春夏物の受注が入り始めており、修理部門も増えてきている（衣料品専門店）」など、「良くなっている」とする回答が増加した。



	29年1-3月	29年1月	2月	3月
RDEI（消費*1）	0.1	0.4	2.2	2.0
百貨店・スーパー(*2)	1.1	0.4	2.4	0.6
乗用車(*3)	5.2	1.6	1.7	9.3
（季節調整値）(*3)	2.8	3.5	1.2	1.3

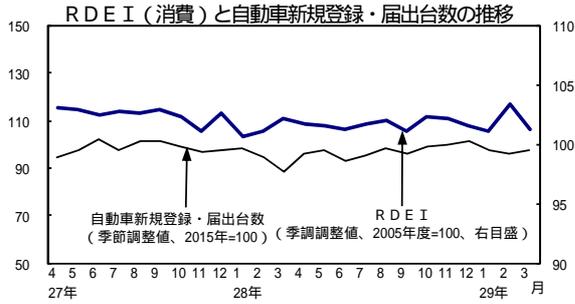
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

店舗調整前、前年同期(月)比(%)

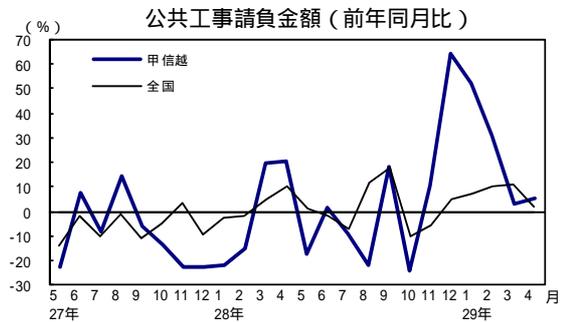
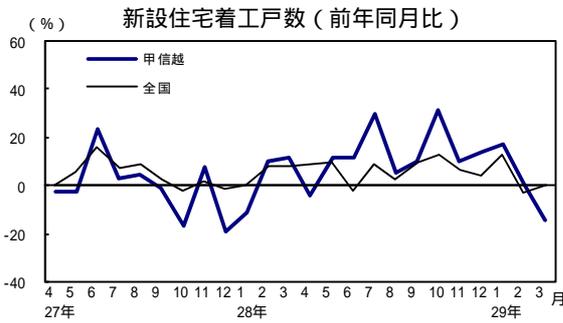
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

(5) 甲信越



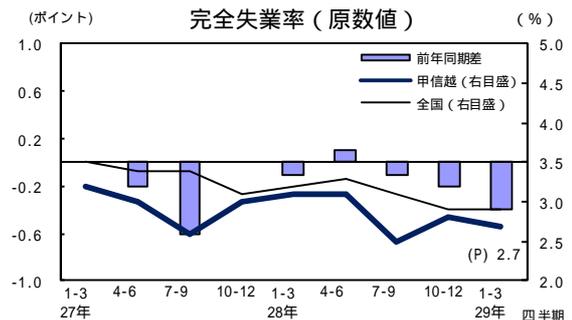
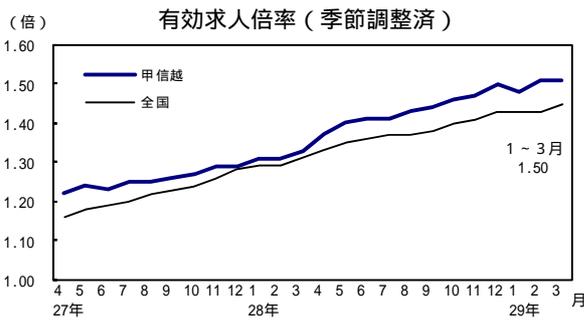
(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。
貸家が前年を上回ったものの、持家、分譲が前年を下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 1. 甲信越は内閣府にて算出。
2. 1 - 3月期の値は暫定値。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果)[雇用関連 (現状)]

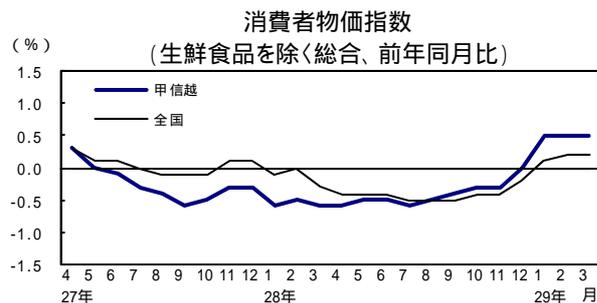
「各企業のベースアップが少ない。また、サービス業から優秀な店員が登録に来るが、皆そろうと、会社が暇で、いつ潰れるか不安なため、転職をしたいようである(人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年4-6月	7-9月	10-12月	29年1-3月	29年4月
倒産件数	53	49	54	51	26
(前年比)	13.1	2.0	10.0	26.1	30.0
負債総額	88	341	88	153	68
(前年比)	52.6	56.3	56.0	4.1	113.2



景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・メモを片手に、余計な物は買わないという消費傾向が続いている。特に午前中に買物をする中高年層が増えているが、1日を通すと来客数、売上共に前年並みである(スーパー)。

<先行き>

- ・安定した当地ゆかりの武将ファンが増えたため、前年の半減ではあるが、期待はできる(商店街)。

